

議 事 録

件 名	令和7年度 第2回酒田市文化財保護審議会
日 時	令和8年2月19日(木) 14:00-15:30
場 所	市総合文化センター412号室
出席者	別紙出席者名簿のとおり

内 容	
<u>1. 開会</u>	
<u>2. 報告事項</u>	
(1)飛島ウミネコ繁殖地再生事業住民アンケート調査結果について ～事務局より資料説明～	
(2)サンゴ保護に関する国の動向について ～事務局より資料説明～	
(3)史跡山居倉庫整備基本計画策定について ～事務局より資料説明～	
<u>3.協議事項</u>	
令和8年度文化財保護に関する取り組みについて ～事務局より資料説明～	
(会 長)	徳尼公廟修復事業実行委員会で行った徳尼公廟修復のためのクラウドファンディングはどのくらい集まったか。
(委 員)	クラウドファンディングは4分の1程度集まった。個人以外にも企業からの直接の寄付金もあり、それを合計すると当初金額はクリアしたので事業は来年度から始めることができるという状況である。
(会 長)	前回の委員会資料の中には文化財説明板とあったが何のことか。また新規取付はあったか。
(事務局)	文化財に関する案内板や標柱は市内に約190ヶ所あり、それを修復するための予算である。新規で取り付けたものは4年前の史跡指定時の山居倉庫の案内板である。
(会 長)	徳尼公廟に関する市からの補助金は実行委員会から申請されたものか、市から働きかけたものか。

(事務局) 実行委員会からの要望があった。酒田市文化財保護条例上、事業費の2分の1を補助金として出す。

(会 長) 他の文化財についても補助金を検討できるか。

(事務局) 指定文化財については現況調査の際に、次年度補助金の案内も同封して補助金の事を紹介している。相談があれば、協議の上で検討する。

(会 長) 日本遺産の北前船寄港地のひとつに日和山があるが、地域一帯を指すのか。

(事務局) 日和山は市名勝、六角灯台は県指定文化財でその他の常夜灯や方角石などの個別指定について今後どうしていくかについては頭を悩ませている。文化的景観では点として指定できるようになった。河口港の景観である東西の通りと南北の小路が残っているので、これを活用できないか考えている。場所は名勝として、個々でも保存ということを考えていかなければならない。

(会 長) 神明神社、金毘羅神社について見た目が荒れている。気になってはいるが神社でお金がない。笏谷石の石の階段も傷んでいる。日本遺産登録時には盛り上がったが、現状のような状況で良いのか。観光面で伸びしろがあると考えるが補助金も検討していただけるか。

(事務局) 公費の支出となるので指定をかけないと補助金を出せない。神明神社や金毘羅神社についてたくさん話はいただいている。未指定の場合だと荘内銀行ふるさと創造基金を紹介しているほか、丸高歴史文化財団を紹介している。分かる範囲で相談に乗っている状況である。金毘羅神社に関しては所有者がいないので、市でなんとかできるか弁護士に相談したが、市では何もできず神社庁と調整しなければならない。神明神社には荘内銀行ふるさと創造基金、丸高歴史文化財団を紹介した。

(会 長) 今後も相談に乗っていただければと思う。金毘羅神社は神社庁に入っていないのか。掃除くらいしたほうが良いと思うが。

(事務局) まずは所有者を決めて段階的に解決していかなければならない。掃除等についても課題である。

(委 員) 説明板は酒田の歴史がみえるものにスポットを当ててほしい。先の委員会で言ったとおりに龍巖寺の木花開耶姫像や青原寺の志村伊豆守光安のお墓など。芭蕉坂の標柱のようなものがあれば良いと思う。また観音寺街道の休み石があるが説明板が無いので設置したほうが良い。旧町名や説明板をもっと設置し歴史がみえるようにし観光に生かすなどしてほしい。

(委 員) 生石2遺跡は東北芸術工科大学、八森遺跡は東北大学が調査しているので新知見を入れた形で看板を設置すべき。酒田市は合併に伴い旧八幡町など山側の旧石器時代、縄文時代の遺跡も合わさったので山側の遺跡も含めて子どもたちにもわかるように看板をつけると良いと思う。

(委 員) 文化財保護事業と文化財管理事業の違いを教えてほしい。また埋蔵文化財行政の予算は含まれるか。

(事務局) 文化財保護事業は補助金を出したり、文化財看板を設置したり埋蔵文化財行政に関する予算が入っている。文化財管理事業は市で所有している施設の管理であ

る。

- (会 長) 北前船以外にも遡って板碑や城輪柵跡などルートを辿ることが出来る説明板の設置、パンフレットを作成する等で酒田の歴史を生かせないか。歴史を観光主導ではなく、文化歴史が主導にできないか。そういった姿勢や方向性が大事なのではないか。
- (委 員) 文化財管理事業が施設の管理であることは分かった。それを活用していく中で他市町村ではパンフレットを作り、小学校など学校教育に働きかけている。文化を生かすのであれば誰に伝えてどう思ってもらうのかが重要。郷土愛の育成は深刻な課題となっており、その一つに文化財があり価値を次世代に伝えようという取り組みを色々な所で行っている。東根市では文化財ガイドブックやマップを作り配布している。好評いただいている取り組みである。施設管理するのは大事だが、発信することが弱いと感じた。
- (会 長) 他課との横のつながりの連携は難しいと思うが、やっていかないといけないと思う。里仁館講座は来年度で終了し大人の学びの場なくなる。文化財のほうで教育委員会と連携して講座を立ち上げ、企画展に関連した講座を行わないと酒田で大人の勉強の場がないし、小学校でも学びの場がない。春休みや夏休みを使って学んでもらったほうが良いのではないか。次世代に伝えることが大事だと思うのでそれに予算を付けたほうが良いのではないか。またボランティアを募るなどしたほうが良いのではないか。
- (事務局) 学校教育との連携について、文化資料館光丘文庫の企画展のチラシ配布や城輪柵跡の見学、昔の道具講座で10数校受入れている。出前講座を増やしていきたいと考えている。また山居倉庫インフォメーションセンターで発信できないか検討中。看板よりデジタルコンテンツのほうが良いのではないかという話もあり、来年度交流観光課にデジタルコンテンツに関する予算が付いたので、試しながら使いながらやっていきたい。講座はどこまでできるか分からないが、今年度は旧鑑屋と旧光丘文庫の見学会を行った。来年度は山居倉庫に入れられないか検討中。できる範囲で積み重ね、酒田の歴史に関する講座につなげられれば良い。
- (委 員) 城輪柵跡の修復工事について、東北は出羽国も陸奥国も国府の場所が分かっており、新潟県は国府の場所さえわかってないという中で、古代の国府を調査してその上に復元しているのは珍しいので、旧鑑屋の見学会のように工事見学会を行ってほしい。
- (委 員) 城輪柵跡の修復工事を行っていただけるのはありがたい。生徒を連れていくと何で直さないのかと質問が出る。1学期に連れていくことが多いので、その時期を外して工程を考えていただけるとありがたい。
- (委 員) 城輪柵跡のメンテナンスを一緒に行っていた左官屋が去年廃業し、職人の数が減っている状況もある。国府があった時代は林など風除けになったものがあつたのだろうが、今は風除けがないので痛みはご了承いただきたい。
- (委 員) 2点ある。まず文化財保護審議会の案件について文化財の指定を審議しなければならないが、案件調査のための費用をみているのか。次に文化資料館光丘文庫について、かつて光丘文庫は図書館と一緒にあっており講座を開いていたはずなので、光丘文庫と資料館が一緒になったのであれば是非講座を開いてほしい。
- (事務局) 塞道幕の追加指定や民俗芸能の調査について提案できればと考えている。美術工芸品については調査に至っていない。調査費用に関しては手数料の項目から捻出

することができる。

次に文化資料館光丘文庫の講座については重々承知しているが、人員配置の関係がある。現状ではギャラリートークを行っているが将来的に考えていきたいのでお時間いただきたい。

(文化政策課長) 文化資料館光丘文庫の館長と兼務になっている。現状、資料館と光丘文庫が一緒になったことで資料整理が追い付いていない。最近はやまをしまい当館へ寄贈という形をとる方が増えている。調査が追い付かず2月1日から寄贈受付を一時休止中である。人員増は要求中だが、きちんとした体制を組んで資料整理ができるという中で将来的に講座について考えていくことになると思う。学校教育や社会教育との関係については、文化財の業務を教育委員会で行っていた経緯がある。山居倉庫など開発を伴う業務と合わせり社会教育とは離れた側面もあるため、観光部門や社会教育部門など横のつながりを強めて事業を進めていきたい。

(会 長) 少ない人員で多くの仕事を行っているからこそ講師などに関しては協力者を見つけるべきではないか。デジタルアーカイブの維持だけでなく、新たに公開することを進めていただけると酒田だけでなく日本中にプラスになるのではないか。『辺要分界図考』は1ページずつみられるようになってきているが、『蝦夷道中記』は最初の1ページのみ。写真を撮影し全部見られるようにすると良いのではないか。収蔵庫に入れておくだけではもったいない。弘前市立図書館の『国日記』(藩日記)は4,500冊以上あるがデジタルアーカイブで全て公開されている。酒田のことも書いてあり、年代ごとに何年何月何日と全て検索できる。このように収蔵資料も見られるようになればありがたい。人員不足ということではあるが、少しずつやっていると良いのではないか。

(委 員) 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会への負担金とあるが何か。

(事務局) 飛島猫島外譲渡事業は鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会と共同で行う事業なので、負担金を計上しているものである。

(会 長) 飛島の猫が泳いで百合島に行っている件についてはどうなっているか。

(事務局) 少なくなっているのではないか。来年度事業で頭数調査を行う予定である。館岩の崖にはウミネコが戻ってきて営巣が確認されている。要因を一つひとつ無くして判断していきたい。

(会 長) 飛島の猫は全部捕まえるのか。

(事務局) 野良猫を中心に捕まえる。島民に説明しながら行っていきたい。

(委 員) 光丘文庫の資料については、昭和57年からデジタルアーカイブ化したものがあり、公開されていたはず。絵図も含めた中身であるのか。

(事務局) 絵図も含め現在のデジタルアーカイブについては市民が楽しめる形をつくったと聞いている。

(文化政策課長) 現在のデジタルアーカイブは視覚的に市民が楽しめるもの、鮮やかなものに絞ってアーカイブ化をした。光丘文庫データベースは別に存在している。デジタルアーカイブには古文書などは少なく、絵図を中心に掲載している。現在のデジタルアーカイブはデータ容量に応じて契約している。高額なカメラで撮影するのでそのための事業費を計上して当時は事業行っ

た。現在は運用に利用料を支払っている。

(委員) 光丘文庫の資料については、昭和 57 年から 10 何年かけて全てをデジタル化した
がそのデータがどこにあるのか。また現在のデジタルアーカイブは権利関係があ
いまいで、光丘文庫だけでなく個人が所有している資料もデジタル化したのでち
ゃんとその時点で了解をとってアップしているのか、二次利用の際などに使いづ
らい。

(文化政策課長) 昭和 57 年に行ったデジタル化の件は全て把握しているわけではない。現在
のデジタルアーカイブの前のデジタル化についてどのような運用を行って
いたのか確認したい。

(会長) 視覚的に楽しめるデジタルアーカイブも大切であるが、専門的に研究している人
たちが使えるデジタルアーカイブにしてほしい。『足軽目付帳』も市指定文化財な
ので早めの閲覧申請をする必要があり、大変である。

4.その他

(事務局) 文化資料館光丘文庫で「冬の酒田の民俗芸能Ⅲ 塞道の幕」展を開催中で、松山
地区の塞道絵幕を展示中である。昨年度の塞道の幕展で情報収集を行ったとこ
ろ、前は愛宕神社でも塞道絵幕を飾っていたこと、今は下台町のみが塞道絵幕を
飾って 1 月の第一日曜日に日枝神社齋館で道祖神を飾っているということがわか
った。また松山では、以前は子どものまつりであったものが少子化のために元旦
にお参りに行くだけになったということがわかった。自治会で所有している幕を
調査し、指定をかけることを検討していきたい。無形文化財として民俗芸能が途
絶えても有形文化財としてその道具に指定をかけるということは前回の委員会
でご説明した通り他の事例がある。次回以降、塞道絵幕について協議をしていき
たい。

(委員) 最上町で塞道行事の運営を引き受けてくれるだろうかとの相談があった。祭礼の記
録や道具など貴重な資料があるので、特色ある行事を含め調査してほしい。

(会長) 様々な課題が山積しているが、協力してもらうところは協力してもらってくださ
い。

以上